



FUJI

2026 SUPER FORMULA Round 9 / 10

全日本スーパーフォーミュラ選手権 2026 第 9 戦 / 第 10 戦 富士スピードウェイ
10月9日 (金) ~ 11日 (日)

PRACTICE フリー走行

10月9日 (金) 天候：晴れ / 路面：ドライ

8月にスポーツランド SUGO で行われた第8戦では、展開を味方につけ嬉しい今季 2 勝目を飾った NTT docomo Business ROOKIE と福住仁嶺。歓喜に沸いたレースから約 2 ヶ月のインターバルで、全日本スーパーフォーミュラ選手権はチームの地元でもある富士スピードウェイに戻り、第9戦・第10戦を迎えた。

第8戦での勝利でシリーズランキングも3位に浮上した福住は、この大会でさらなるランキング上位を狙うべく、10月9日(金)に行われた専有走行から、好調ぶりをキープしていく。

午前11時からスタートした専有走行1回目は、やや雲があるものの晴天で、気温23度/路面温度31度というコンディションで始まった。

途中、スピン車両やストップ車両も発生し、一度赤旗中断もある中で進んだ専有走

行1回目だが、福住はアウトインを繰り返しながら19周を走り、チェッカー時には1分22秒580を記録。これが専有走行1回目のトップタイムとなった。

午後2時45分から始まった専有走行2回目も晴天は続き、気温22度/路面温度33度というコンディションでスタートした。福住はここでもセットアップを煮詰めながら24周をこなし、2グループに分けての走行時に1分22秒772を記録。4番手につけ専有走行を締めくくった。

「今までの手ごたえに比べれば良くなっていると思いますし、気温が下がってきたことだと思います。セットアップも見直してもらい、かなり戦えそうな手ごたえが今日の時点ではあります」と福住も好調さを語った。ただ、第9戦が行われる10月10日(土)になればまた様相も変わってくる。

「予選は大事になりますし、しっかり前に行きたいです。ポイントを考えても確実に前に行かなければと思います。自分たちのポテンシャルをしっかり出し切れるようにしたいですね」と福住は語った。

専有走行1回目、2回目とも好位置につけることができてはいるが、とはいえ今回はタイム差が非常に少ない。専有走行2回目では、19台が1秒差につけていた。

NTT docomo Business ROOKIE は翌日の予選に向け、入念に準備を進めていった。



Round.9 QUALIFY

第9戦 公式予選

10月10日(土) 天候:晴れ/路面:ドライ



専有走行から一夜明け、迎えた10月10日(土)の富士スピードウェイは快晴に恵まれた。午前9時40分から行われた第9戦の公式予選は、気温21度/路面温度30度というコンディションで始まった。

福住はQ1突破を目指しまずはB組から出走すると、1分22秒280を記録。4番手につけ、まずはQ2進出を果たした。ただ、前日に続き差が非常に小さく、ライバルのエンジンメーカーの車両が速い。

続く午前10時15分からのQ2では、さらに差が縮まっていく。福住もチェッカーに向け1分22秒138を記録したが、結果

は7番手。4列目グリッドから午後の決勝レースを戦うことになった。

「前日からライバルが速いのは予想もしていたのですが、クルマの仕上がりは良くなっている部分も多いですし、GR勢のなかで上位で終えられたのは良かったです。とはいえ、クルマやドライビングでもさらに良くできることはあると思いますし、明日の予選、そして決勝で明日に繋がるレースができたと思います」と福住は振り返った。7番手という位置ではあるが、目指すはひとつでも大きなポイント獲得。午後の決勝に向け、チームは準備を進めた。

Round.9 RACE

第9戦 決勝レース

10月10日(土) 天候:晴れ/路面:ドライ

迎えた午後3時からの決勝レースは、晴天が続き気温25度/路面温度35度というコンディションで始まった。

福住は1周目、スターティンググリッドどおりの7番手につけ、前を走る#19 ザック・オサリバンを追うが、後方からは#36 坪井翔が急接近。4周目にはオーバーテイクを許してしまったが、5周目にはふたたびかわし7番手に。7周目には逆に順位を落としてきた#16 野尻智紀をかわし6番手に浮上するなど、オーバーテイクが多い富士らしく激しいバトルを展開しながら序盤のレースを進めていった。

そんな中、10周目にはピットウインドウがオープンしたが、この時点ではNTT docomo Business ROOKIEには、福住のペースを見ながら「作戦が二転三転していると13周目でピットインを決断。素早いピット作業をこなしコースに戻すことに成功した。

コースに戻った福住だが、翌周には序盤5番手を走っていた#50 野村勇斗がピット



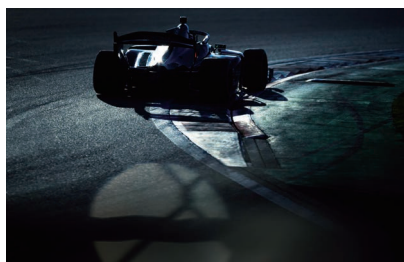
作業を終えて戻ってきた。#50 野村は福住を必死にディフェンスするが、福住はおよそ1周をかけて攻略することができた。とはいえ、この間に福住より前にピットインしていた#1 岩佐歩夢とはややギャップが開くことになってしまった。

福住はその後#1 岩佐を追いながらレースを進めていたが、一度先行していた#36 坪井がふたたび猛追をみせてきた。「向こうのペースがすごく速くて、頑張ってるんですけど……」と福住は何周にも渡るバトルでなんとかポジションを守っていたものの、33周目のGRコーナーで#36 坪井の先行を許し、6番手に後退することになってしまった。

ただ、その後は7番手につけていた#22 松下信治とは大きな差がついていたことから、福住はそのままポジションを守りフィニッシュ。6位でチェッカーを受け、5ポイントを獲得した。

「まだまだ足りていないところがあることは感じています。しかし、確実に7月の富士と比べると確実に良くなっているので、いろいろなところをヒントにして明日の第10戦の、まずは予選に備えたいと思います」と福住は第9戦を振り返った。

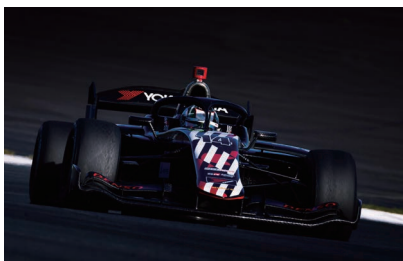
ライバルたちが速さをみせるなか、いかにその速さに対抗していくか。チームメンバーはレース後も、綿密なミーティングと夜遅くまでの作業を行った。



Round.10 QUALIFY

第10戦 公式予選

10月11日(日) 天候:晴れ/路面:ドライ



第9戦から一夜明け、迎えた10月11日(日)は午前10時から第10戦の公式予選がスタートした。

前日、6位入賞こそ果たしたものの、決勝レースのペースに苦しんだ福住は、第10戦のコンディションを読みながら、大幅なセットアップ変更に取り組んでいった。第9戦では夏の富士でのレースよりも手ごたえはあったものの、優勝争いをするにはまだ足りない。これを補おうという考えだ。

福住は気温23度/路面温度32度というコンディションのもと始まった公式予選では、まずはQ1のA組から出走すると、Q2

進出を目指しウォームアップを経てアタックに入っていた。

ここで福住は1分23秒147というラップタイムを記録したが、Q2には届かない9番手に終わってしまう。予選総合では18番手と、タイトル争いを考えると痛いグリッドとなってしまった。

結果的には、取り組んだセットアップ変更が裏目に出てしまったかたちだが、逆に言えば「気づきになりました(石浦宏明監督)」というもの。決勝レースでの挽回を目指し、チームは短いインターバルの中でふたたびのセット変更に取り組んだ。

Round.10 RACE

第10戦 決勝レース

10月11日(日) 天候:晴れ/路面:ドライ

このレースウィークの富士スピードウェイは晴天が続き、午後3時から行われた第10戦の決勝レースは、気温25度/路面温度34度というコンディションのもとスタートが切られた。

予選後、再度のセットアップ変更に取り組んだこともあり、福住は好スタートを決めると、1周目に一気に12番手に浮上する。3周目には#16 野尻智紀をかわし11番手となるが、ここで8番手を争っていた#50 野村勇斗がストップ。セーフティカーが導入された。

9周目のリスタート後も福住のペースは良く、上位争いに食らいついていくと、上位陣はピットウインドウオープン後、少しずつピット作業に向かっていき、コース上に残っていた福住の順位が上がっていく。

そんな中、19周目に表彰台圏内を争っていた#6 太田格之進が#65 イゴール・オオムラ・フラガと接触。GR GT コーナー立ち上がりでストップし、レースは2回目のセーフティカーランとなった。



NTT docomo Business ROOKIEはこの機を逃さず、福住をピットに呼び戻す。セーフティカー中にタイヤ交換を行えば大きなジャンプアップも可能なのは第8戦に示したとおりだが、作業を終えた福住の後方からは続々と他車がピットインしていた。

福住はロリポップが上がるとともに動きはじめたが、後方からは隣のピットだった#3 ルーク・ブラウニングが接近していた。一瞬お見合いのようなかたちになったが、減速した#3ブラウニングに#12小出峻、#28 小林利侑斗が追突。#3ブラウニング車が横を向き、福住にヒットしてしまった。

福住は半ば強引にピットアウトし、隊列に合流。24周のセーフティカー解除後、今

度は2台のクラッシュで3回目のセーフティカーが導入されるなど荒れた展開となったが、32周目のリスタート後、福住は#64 佐藤蓮や#97 ロマン・スタネックをかわし、10位まで追いつけチェッカーを受けることになった。

ただレース後、ピット作業でのアンセーフリリースのパナルティが課され、福住の最終的な順位は11位となった。これで福住は今季のチャンピオンの可能性も消滅。チームにとっても悔しい一戦となった。

しかしこの経験もNTT docomo Business ROOKIEにとっては新たな糧となる。11月の最終大会で、今季を良い形で締めくくべく、チームは全力で臨んでいく。

VOICE ドライバー／監督コメント



Nirei FUKUZUMI DRIVER

福住仁嶺

「第9戦ではまだ足りていないところがあると感じ『こちらの方が良いのでは』と大幅に変えたセットアップをトライしましたが、思っていた方向にいきませんでした。結果的に18番手からスタートしましたが、序盤大きく順位を上げられましたし、戦略でも良い選択ができました。セーフティカーのタイミングを狙いピットインしましたが、アンセーフリリースとなってしまう、大きく順位を下げてしまいましたし、他のチームにも迷惑をかけてしまいました。まだチームとして足りていない部分がありますね。でも決勝ペースなど良い部分もあったと思いますので、いろいろなものを得た週末になったと思います」

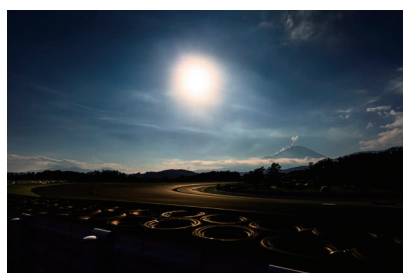
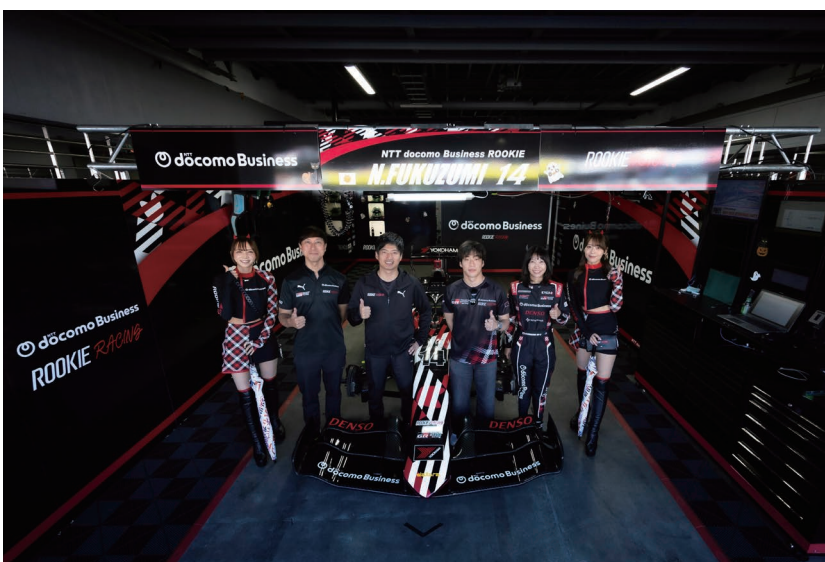


Hiroaki ISHIURA GM / DIRECTOR

石浦宏明

「第9戦では自分たちにできることはやりきれましたが、ペースが足りませんでした。とはいえ、夏の富士に比べれば大きな前進があったと思います。今回の富士では、僕はとにかく来季の富士に繋がるようにと言ってきたので、第10戦に向けてチャレンジを行いました。結果的に予選ではそれが失敗でしたが、逆に気づきとなり、決勝で良いペースで走れたと思います。その点は収穫がありましたが、ピットロードで他車を巻き込むアクシデントが起きてしまったので、監督の自分含め、想定外の甘さがあったと思います。応援してくださっている皆さんには申し訳ありませんでしたが、またひとつひとつ学んでトップを目指して頑張ります」

PHOTO GALLERY フォトギャラリー



Our activities are supported by all partners

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

The logo for NTT docomo Business, featuring the NTT logo and the text 'docomo Business'.

DENSO

The logo for MITSUI & CO., featuring a stylized 'M' icon and the text 'MITSUI & CO.'.

The logo for HAYASHI TELEMPU, featuring the text 'HAYASHI TELEMPU' in a stylized font.

The logo for VITEC, featuring the text 'VITEC' with a stylized 'V' and the tagline 'Creative Power'.

NSK

The logo for SMBC, featuring a stylized 'S' icon and the text 'SMBC'.

The logo for KINTO, featuring a stylized 'K' icon and the text 'KINTO'.

The logo for OGURA CLUTCH, featuring a stylized 'O' icon and the text 'OGURA CLUTCH'.

The logo for vūteq, featuring a stylized 'v' icon and the text 'vūteq'.

The logo for TAMIYA, featuring a stylized 'T' icon and the text 'TAMIYA'.

The logo for ENKEI, featuring a stylized 'E' icon and the text 'ENKEI'.

The logo for asics, featuring a stylized 'a' icon and the text 'asics'.



ThreeBond